

第1回地球生きもの委員会 議事概要

■日時: 2010年1月25日 11:30~12:35

■場所: 帝国ホテル 2階「蘭」の間

(1)地球生きもの委員会委員長及び委員長代理の選出について

○事務局より、事前に開催した懇談会において、委員長及び委員長代理の推薦があったことを説明。

- ・全会一致で、委員長には御手洗委員（日本経団連会長）、委員長代理には涌井委員（桐蔭横浜大学特任教授）に就任いただくことで決定。

○御手洗委員長より委員長就任の挨拶

- ・皆様のご協力を得ながら当委員会の活動を推進していきたい。今年は生物多様性保全を進める上で大きな節目の年となるため、全ての国民が連携協力して生物多様性保全に向けた行動を進める必要がある。
- ・経団連は昨年春に、「生物多様性行動宣言」を公表した。生物多様性が重要な基盤であることを認識し、保全に向けて積極的に取り組むとともに、急成長を遂げているアジアの企業にも取組の輪を広げていきたい。
- ・これから一年間、生物多様性の保全と持続可能な利用の実現や、普及促進を進める組織として、この委員会を進めていきたい。

(2)国際生物多様性年及び国内委員会について

○事務局から資料に基づき、国内委員会の役割や活動の進め方について説明した。

○委員長代理より、本委員会前の懇談会での議論結果について報告がなされた。

- ・国際生物多様性年と COP10 を契機に、生物多様性の意義と意味を社会に浸透させるため、本委員会は尽力すべき。
- ・初等中等教育の中で、知性のみならず感性も含めて伝えていくことが重要。
- ・自治体がそれぞれの地域の特徴を捉え、さらに生物多様性を通したネットワークを構築し、生物多様性の意義と意味を末永く浸透させていくことが重要。
- ・本年をきっかけとして中長期的に、どのようにこの生物多様性の議論を浸透させ、また深めていくのかをしっかりと考えること。
- ・トップダウン型だけではなく、ボトムアップ型の議論が起きるよう本委員会がサポートすべき。

○市民、博物館、自治体、国などの多様な主体の役割・連携及び各委員の取組状況など

について議論があった。主な意見は次のとおり。

- ・ 本年始めにポスト 2010 年目標日本提案が政府から提案されたのは、大変意義あること。それがさらに充実するよう「生物多様性の 10 年」という形で仕掛けていくことが重要ではないかと考えており、市民提言として COP10 に持っていきたいと考えているが、国内委員会もこの市民提言をぜひ尊重していただき、それを考慮した中長期ビジョンで運営するようにお願いしたい。
- ・ 初等中等教育の重要性について、山階鳥類研究所では、持っている標本のインターネット公開を昨年 12 月に行った。あまり自然に触れない多くの人にとってこのような取組は重要。しかし、博物館の予算が削減されており、博物館が元気になるような仕掛けをお願いしたい。
- ・ 日本の博物館は十数年前には魅力的なものではなかったかもしれないが、ここ十年の博物館の変貌は著しく、市民と一緒になった魅力的な博物館が、若者の努力によって作り上げられている。しかし、こうした博物館に対する認識は社会にはあまり浸透していないため、今後は浸透させ、さらに本当に市民のためになるものにしていきたい。また、生物多様性は「環境省」のみというイメージがあるが、環境省だけではなく、日本国政府として取り組み、国民が広く生物多様性に注目するようにお願いしたい。
- ・ COP10 期間中に国際自治体会議を行う予定。これは既存の会議を基に、より広域的な自治体に参加できるようにする予定。昨年、プレとして国内自治体会議を開催し、100 を超える自治体に参加いただいた。COP10 後もこうした自治体のネットワークを繋いでいけるようにしたい。
- ・ 千葉県立中央博物館で市民自らが展示をする生物多様性関連のコーナーを設置したところ盛況であり、市民自らが展示を行う時代になっている。博物館のフル活用や市民との相互連携及び自治体間の連携が重要。さらに、学校教育の中で生物多様性の視点から理科を徹底して教えていくことが大切であり、そのための手法や国際年を利用した生物多様性の普及啓発を考えることが必要。
- ・ 広報は映像をフル活用すべき。生物多様性の重要性、産業との関連、機械文明から生物文明へのシフト、21 世紀のあるべきライフスタイル等をまとめたパッケージ映像を、予算が少ない中でも作って全国規模で普及啓発を行うべき。
- ・ 日本はアジアの一員なので、他国の国際生物多様性年国内委員会との連携・協力も行うべきではないか。予算に限りはあっても、そういう場を設けていただきたい。

- ・ IUCN の親善大使として 5 年前から活動しており、取材で COP10 の話をしてきたがなかなか浸透しない。しかし、多くのサポーターの方がボランティアで協力してくれているので、資金はなくても理解はしてくれているはず。もっとお互いにコミュニケーションをとり、皆様の架け橋になりたい。秋に名古屋で大きなコンサートをしたいと考えている。今日を機会に風向きが変わるのではないかと思っている。まずは声を掛けていただきたい。
- ・ 昨年 10 月の神戸国際対話では、欧州と日本の考え方、それぞれのアプローチにかなりの温度差があると感じた。わが国では徳川吉宗が諸国産物帳を作成するなど、生物多様性を重視した歴史があるが、欧州にはキャップアンドトレードといったビジネスの創出の方向に関心が集中し、ややもすれば経済論理上の解決に偏りがちである。そこで、生き物と馴染んできた文化を持つ日本の価値感をしっかりと発信し、生物多様性を市場価値の観点だけに留めることのない方向に寄与する、ひとつのステージとしてこの委員会を位置づけられるといい。
- ・ 愛知県も、国内自治体会議、国際自治体会議の開催を通じて、自治体のネットワークができる。こうしてできた国内のネットワークを COP10 終了後もつなぐ役割を担いたい。先進県である石川県や千葉県、政令指定都市に相談しながら進めていきたい。
- ・ 「プロジェクトチーム」は記念イベントを行うために設立する実施組織とあるが、国が行うものだけに関するものなのか、それとも自治体、NGO などの行う活動も含めて、それらの連携を取るようなものなのか。

事務局：

- ・ 資料に記載されているのは基本的に国のイベントだが、もちろん他の各取組とも連携していきたい。詳細は幹事会で検討したい。
- ・ 石川県で開催するクロージングイベントは、生物多様性の保全に関する取組として 2010 年以降も取り組み、また、石川県の良さもわかるイベントとしたい。石川県は里山里海に関する調査を支援してきた。また、生物多様性に関する戦略ビジョンを秋に策定する予定。クロージングイベントの成功のため、皆様のご協力をお願いしたい。
- ・ CBD 市民ネットでは、7 月に 100 日前イベントの開催を考えている。イベントでは広く市民の意見を集めて、市民の力を借りて提言を練り上げ、「生物多様性」が日本人にとって極めて当たり前の日本の文化、知恵であることを世界に伝えていきたい。その具体的なアクションとして、100 日前イベントを行うので、国内委員会にもご協力をお

願いたい。

- 一般的な経済人は、生物多様性についてまだ関心が薄く、とくに最近の子供は自然と接する機会がまったくないため、博物館の活用などが必要。地球温暖化の問題と同じように、生物多様性の問題についても企業を活用していただきたい。本委員会では生物多様性の理屈は通るが、国民の大多数はそうではない。環境倫理の三原則や生物多様性がどうなっているのか、そうしたことを伝えるために、映像も活用しつつ予算を振り分けていただきたい。
- 名古屋市では生物多様性名古屋戦略を策定中であり、来月にはパブコメにかける予定。ライフスタイルや、都市の生物多様性への依存などをわかりやすく示していきたい。また、名古屋市の生物多様性についても市民の皆様に伝えていきたい。

○御手洗委員長から以下のとおり、取りまとめがなされた。

- 多くの意見をいただき感謝。それぞれに強い熱意を感じることができた。今回の会議を契機に、国際生物多様性年を盛り上げていきたい。
- 経団連としても、昨年三月に生物多様性宣言を公表し、自然と企業活動の共生に努めるよう会員にお願いしたところ。この問題に最善、全力を尽くしていきたい。

以上